

犬舎と一般的な管理について

真野 詩子

もし皆さんがラブラドル・レトリバーと楽しい生活を送りたいとお考えになるのなら、ラブラドル・レトリバーの生活環境について十分に配慮して下さることを、切にお願いいたします。

ラブラドル・レトリバーは、セントバーナードほどではありませんが、決して小さな犬ではありませんし、シェパードほどではありませんが、本質的に充分活動的な犬なのです。盲導犬がしずかに置物のごとく飼主の足許に伏せていられるのは、この犬が、驚くほどりこうで、そうしなければならぬ状況の時には、そうしていられる犬であるというだけのことなのです。彼らは思う存分駆け廻りもしたいし、のんびりとあるき廻ったり、ゆっくりと、身を伸ばして休める場所も欲しいのです。彼らに充分な場所を提供してやっておいででしょうか。いいえ、充分な場所といっても、ラブラドル・レトリバーが、専用を使用するための、広い庭や犬舎のことだけを言っているわけではありません。庭で飼っているのならせめて3坪ほどの広さの、日当たりと風通しのよいスペースが必要であり、夏は日ざしを遮る木影などが欠かせません。もしも庭が狭く、日当たりや風通しに難点があり、雨が振れば泥んこになってしまうとしても、ラブラドル・レトリバーをお家の中で飼うおつもりなら、せまくて条件の悪い庭は問題になりません。ラブラドル・レトリバーは、シェパードと大きさは同じ位ですが、気質は全く違った面を持った犬ですから、大きいけれど飼おうと思えば家の中で、スペースを人間と共用しながら、充分楽しく飼うことができます。運動するための場所は散歩の時に、どこか適当な空地とか、公園とか、川原とかを見つけてやる事が出来ると思います。

生活環境の問題は、場所のことばかりではありません。ラブラドル・レトリバーにとっては、むしろ、もっと大切なのは飼主である皆さんがどれ程の時間を、共に彼らと過ごしてやれるかということです。一日中お仕事で外に出っぱなし、ラブラドルと顔を合わせるのは餌をやるときだけなどというのは悲惨に過ぎます。といっても多忙な人間社会、のんびり犬と戯れてばかりいられようはずはありません。疲れた時は散歩を休んだってかまわないのです。一定の時間を、犬のために特に割いて、犬のお相手をしなければならぬというわけではありません。飼主が明日の活力を養うための休養の時

間を取っている時、例えばテレビを見ていたり、風呂に入っていたり、お酒を楽しんでいたりする時間にも、彼らをそばに置いてやればいいのです。ラブラドル・レトリバーは仔犬でない限り、時々主人の顔を見上げながら足許で静かに充足の時を過ごすことの出来る犬なのです。

ラブラドル・レトリバーは、このようにとても魅力的な犬なのですが、残念なことに、時として飼われるべきでないと思われる飼い主に飼われていることがあります。

愛すべき気質を持ったラブラドル・レトリバーは、子供たちの友達としても理想的です。けれど、その良さは飼主がラブラドル・レトリバーの生活環境に、十分な配慮をしてやってこそ生まれるものだと思います。ラブラドル・レトリバーの要求は、他の西洋犬種と較べて、さほどおおくはありませんが、決して安易に手を抜けることばかりではありません。飼主はその要求を満たしてやってこそ、飼主の資格を持てるのです。そして、その時こそ、皆さんはラブラドル・レトリバーがそばにいる時ほど、幸せな時はないと感じられるほど、献身的な愛情を、12年から15年もの永い間、ラブラドル・レトリバーから得られることと思います。

ラブラドル・レトリバーは順応性の高い犬ですから、その飼育方法もずいぶんと様々ですし、あまり独断的に自分の方法を最善と申し上げるつもりはありません。しかし、基本的な約束事は守ってやる必要があると思います。食事についていえば、決った時間に決った内容の食事を与えるようにすることです。内容は極端に変えない方がいいと思います。もちろん、身体の具合を見て考える必要はありますが、私は、肉と、ドックフードと、ミルクと、玉子というオーソドックスな食事を与えています。

これはどんな種類の犬についても言えることだと思いますが、犬の管理で最も大切なことは、決った手順を確立し、それに忠実であることではないでしょうか。ラブラドル・レトリバーにとって、毎日の最も楽しいひと時が、できるだけ同じ時間に廻って来るように、飼主の勝手な都合や、うっかりで延びたり縮んだり、早かったり後れ過ぎたりされない様にと願う次第です。毎日、同じ時間に食事をさせ、運動させるのが最上であると私は信じています。食事を朝晩二回に分けて与えるのが大変で、もし一度に与えるのであれば、成犬に達している場合には、一日に一回でも良いでしょう。その場合、与えるのに一番良い時間帯は夕方だと思います。

また、もしラブラドル・レトリバーを戸外で飼う方法をとるのでしたら、夜の冷たい外気から守ってやる必要が欠かせないでしょう。冷たい外気が犬舎にはいるのを防ぐ方法の一つに、入口と同じ大きさのゴム板か、厚手の布を入口の上からつるす方法があります。ラブラドル・レトリバーは、自分でゴム板や布を押して出入りすることが出来ますし、ゴム板や布は犬が通った後で自動的に元に戻り、冷たい外気を遮断します。このゴム板を使う方法は、アメリカ北部やカナダで広く使われている様です。特に、仔犬を一日中外に置く場合などには、最も良い方法だと思います。私自身はゴム板の代りに、ちょっと固めのカーベットの一部を使っています。仔犬たちはすぐにその押し方を習得して、夕方、外で遊んだ後でも、天気が悪い時でも犬舎を汚すことが少なくなりました。

戸外で飼う場合の、場所の広さについては、利用できる土地の形にもよりますが、スペースが許す限り、犬舎はフェンスで囲まれた運動場に通じている方式にすると思います。運動場は広いにこしたことはありませんが、広いからといって、そこに放り出したままで、散歩に連れて行ってやらなければ、犬は一匹では自分で運動場を駆け廻って運動するなどということはせず、片隅でつまらなそうにねそべっているだけですから、たちまち運動不足の欲求不満に陥るでしょう。

フェンスで囲った内側の地面は、コンクリートか、硬質のレンガ、または砂利が敷かれているか、芝生が植えられているか、土のままかが、ごく一般的ということになるかと思えます。

簡単に掃除ができることと、嚙んだり呑み込んだりの危険がないことから、できるだけ、運動場というか遊び場は、コンクリートにするのがよいと思います。知人から聞いた話ですが、掛り付けの獣医さんが、沢山の小石を呑み込んでしまった仔犬を持ち上げた時、仔犬のお腹の中で石がかたかた音を立てたそうですが、そのX線写真は驚くべきものだったということです。仔犬の手の届く辺りには、仔犬が呑み込んでしまいそうなものは、何もおいてはいけないのだということ、つくづく教えられる話でした。

芝生が植えてある遊び場は、一見緑で快適そうですが、犬たちは穴掘りがおとくいですから、土の中から何を掘り出すか知れませんが、掘り返した後は雨でも降るとすぐぬかるみになってしまい、そこで遊ぶ犬たちの身体は泥まみれということになります。掘り返されたり、足で引っかかれた芝の回生

は意外に遅いものです。

その点コンクリートには、欠点もありますが、多くの利点もあると思います。簡単に掃除ができ、消毒もし易く、多少の傾斜をつけておけば排水が良く、乾燥も早いという点です。ビール性の病原菌に汚染された場合など、すべて消毒して、しばらく休ませないと同じ場所に入る限り、繰り返し同じ病原菌に侵されます。消毒し易く、じめじめしないとうことは大切なことだと思います。コンクリートの欠点の一つは、固くて目が粗いことにあります。これには爪を切らなくても、うまい具合に自然に良い状態が保てるという利点もありますが、我が家では毛の保護と、ひじに固いタコが出来るのを防ぐために、コンクリートは出来る限り目の細かいものにし、その上にアートフラワーという、ビニールのようなもので出来たものを上に貼っています。これだと排泄物の臭いも残りませんし便利です。ただし散歩の時は、出来るだけ広い草原や柔らかい土を踏ませてやる必要があると思います。犬たちの足は、本来自然な大地に向くように出来ているのですから。

遊び場の中に、低いテーブルを置いておくと、ラブラドル・レトリバーはその上の上のって寝そべっているのが大好きです。人間にとっては、犬の手入れをする時に、犬がテーブルにいてくれるので、前かがみで不自然な姿勢をしなくて済み、楽に手入れが出来て一石二鳥です。

もしも、フェンスの内側も外側も土のままの状態であるのならば、フェンスの外側に、コンクリートブロックを一行に半分ほど埋めた状態で敷き並べるなどして、犬がフェンスの下に穴を掘って、外に出るのを防ぐ必要があると思います。

フェンスはある程度の高さが必要です。ある程度と漠然とした言い方になるのは、ラブラドル・レトリバーの中には、仔犬のうちから想像以上のフェンス登りの名犬がいるからです。同じラブラドル・レトリバーといっても個体差が大きいので、フェンスの高さは何米と決めかねます。人間にとっては、フェンスがあまり高過ぎるのは決して心地よいものではないでしょうから。知人の犬の中に、フェンス登りを習得したのがいて、度々フェンスの外に出て困るので、フェンスの上部を内側に曲げる形にしたら、効果があったということです。

ラブラドル・レトリバーには、その環境が快適で、愛情いっぱい育てられている場合、フェンスを崩したり、のり越えて外に出たがる傾向はま

ずないのですが、他所の犬を、もしも預かることになったりした場合のことを考えれば、ラブラドールはやろうと思えば、垂直のフェンスをよじ登る能力も持っていることを考慮して、フェンスを用意して置くにこしたことはないと思います。

そう考えると、ラブラドール・レトリバーにとっては、ドアのノブを口で回すことも、うけに引っかけるだけの下し錠を、鼻でちょっと持ち上げて外すことも、さして難しいことではないわけですから、出入口の戸じまりには十分な注意が必要でもあります。なにせ、自分で水道の蛇口をひねって、水遊びをするのまでいるという話ですから。ただしそのラブラドール・レトリバーが、水遊びを終った後で、また蛇口をしめるのかどうかまでは聞きもらしましたが。

犬舎は 何も凝ったものである必要はないとおもいますが、ラブラドール・レトリバーが思い切り身体をのぼして、寝返りの打てる程度の広さは最低限必要でしょうし、中に十分な日光が差し込む様な工夫はしてやらなければ不衛生だし、風通しも必要だし、夏には蚊を防ぐ工夫も必要と、問題は少なくありません。

今回はこら辺で筆を置きますが、ラブラドール・レトリバーにとって最悪なのは、狭い犬舎に閉じ込められたり、鎖でつながればなしで飼われることだと思います。いつも首輪や鎖をつけられていると、その所には汚れが残り、また、毛についた癖がなかなかとれにくいものですし、その部分の被毛が損われて、皮膚病の原因になったりもします。首輪やチェーンチョーカーは散歩に連れ出す時だけにしたいものです。どんなに庭が狭いからといっても、ラブラドール・レトリバーをつなぎっぱなしで飼うことには賛成できません。

ラブラドール・レトリバーは、間違いなく確かな心を持った生きものです。私は、いつも自分がそうされたらどうか・・・と立場を逆に考えて犬を飼育することにしています。